

第 3 期 中 間 決 算 公 告

平成24年12月26日

東京都千代田区丸の内一丁目9番1号
株式会社 大和ネクスト銀行
代表取締役社長 小出 富城

中間貸借対照表（平成 24 年 9 月 30 日現在）

（単位：百万円）

科 目	金 額	科 目	金 額
（資産の部）		（負債の部）	
現金預け金	135,591	預 金	1,582,667
有価証券	2,137,790	譲渡性預金	290,000
貸出金	53,493	債券貸借取引受入担保金	381,191
外国為替	265	その他負債	43,193
その他資産	32,755	未払法人税等	89
その他の資産	32,755	その他の負債	43,103
有形固定資産	2	賞与引当金	89
無形固定資産	5,447	役員賞与引当金	2
貸倒引当金	△0	役員退職慰労引当金	22
		繰延税金負債	3,042
		負債の部合計	2,300,209
		（純資産の部）	
		資本金	30,000
		資本剰余金	30,000
		資本準備金	30,000
		利益剰余金	△ 579
		その他利益剰余金	△ 579
		繰越利益剰余金	△ 579
		株主資本合計	59,420
		その他有価証券評価差額金	18,932
		繰延ヘッジ損益	△13,217
		評価・換算差額等合計	5,715
		純資産の部合計	65,135
資産の部合計	2,365,345	負債及び純資産の部合計	2,365,345

中間損益計算書

平成 24 年 4 月 1 日から

平成 24 年 9 月 30 日まで

(単位：百万円)

科 目	金 額
経 常 収 益	12,458
資 金 運 用 収 益	8,831
(うち貸出金利息)	(145)
(うち有価証券利息配当金)	(8,600)
役 務 取 引 等 収 益	9
そ の 他 業 務 収 益	3,617
そ の 他 経 常 収 益	0
経 常 費 用	11,332
資 金 調 達 費 用	6,125
(うち預金利息)	(1,726)
役 務 取 引 等 費 用	675
そ の 他 業 務 費 用	1,789
営 業 経 費	2,739
そ の 他 経 常 費 用	2
経 常 利 益	1,126
税 引 前 中 間 純 利 益	1,126
法 人 税 、 住 民 税 及 び 事 業 税	343
法 人 税 等 調 整 額	△6
法 人 税 等 合 計	337
中 間 純 利 益	789

記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

重要な会計方針

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

有価証券の評価は、その他有価証券のうち時価のあるものについては中間決算日の市場価格等に基づく時価法（売却原価は移動平均法により算定）により行っております。

なお、その他有価証券の評価差額については、全部純資産直入法により処理しております。

2. デリバティブ取引の評価基準及び評価方法

デリバティブ取引の評価は、時価法により行っております。

3. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産（リース資産を除く）

有形固定資産は、定率法を採用し、年間減価償却費見積額を期間により按分し計上しております。

また、主な耐用年数は次のとおりであります。

器具備品 6年～20年

(2) 無形固定資産（リース資産を除く）

無形固定資産は、定額法により償却しております。なお、自社利用のソフトウェアについては、当社における利用可能期間（5年）に基づいて償却しております。

4. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

「銀行等金融機関の資産の自己査定並びに貸倒償却及び貸倒引当金の監査に関する実務指針」（日本公認会計士協会銀行等監査特別委員会報告第4号）に規定する正常先債権に相当する債権については、一定の種類毎に分類し、予想損失率等に基づき計上しております。

すべての債権は、資産の自己査定基準に基づき、営業関連部署及び審査所管部署が資産査定を実施しております。

(2) 賞与引当金

賞与引当金は、出向役員及び出向従業員に対する賞与の支払いに備えるため、所定の計算基準による支払見積額の当中間期負担分を計上しております。

(3) 役員賞与引当金

役員賞与引当金は、役員に対する賞与の支払いに備えるため、所定の計算基準による支払見積額の当中間期負担分を計上しております。

(4) 役員退職慰労引当金

役員退職慰労引当金は、役員に対する退職慰労金の支払いに備えるため、当社の取締役退職慰労金規程に基づく当中間期末要支給額を計上しております。

5. 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建資産・負債は、主として中間決算日の為替相場による円換算額を付しております。

6. ヘッジ会計の方法

金利リスク・ヘッジ

金融資産から生じる金利リスクに対するヘッジ会計の方法として繰延ヘッジを適用しております。固定金利の債券の相場変動を相殺するヘッジにおいては、個別にヘッジ対象を識別し、金利スワップ取引をヘッジ手段として指定しております。ヘッジ有効性評価の方法については、相場変動を相殺するヘッジについて、ヘッジ対象とヘッジ手段の相場変動の累計を比較し両者の変動額を基礎にして判定しております。

7. 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

注記事項

(中間貸借対照表関係)

1. 無担保の消費貸借契約(債券貸借取引)により貸し付けている有価証券はありません。また、使用貸借又は賃貸借契約により貸し付けている有価証券はありません。

無担保の消費貸借契約(債券貸借取引)により借り入れている有価証券及び現先取引並びに現金担保付債券貸借取引により受け入れている有価証券のうち、売却又は(再)担保という方法で自由に処分できる権利を有する有価証券で、(再)担保に差し入れている有価証券及び再貸付けに供している有価証券はありません。また、当中間期末に当該処分をせずに所有しているものはありません。

2. 貸出金のうち、破綻先債権、延滞債権、3ヵ月以上延滞債権及び貸出条件緩和債権はありません。
3. 担保に供している資産は次のとおりであります。

担保に供している資産

有価証券 381,368百万円

担保資産に対応する債務

債券貸借取引受入担保金 381,191百万円

上記のほか、為替決済の取引の担保、日銀への差入共通担保あるいはデリバティブ取引等の担保として有価証券37,464百万円を差し入れております。

また、その他資産には、金融商品等差入担保金14,080百万円及び保証金151百万円が含まれております。

4. 当座貸越契約及び貸付金に係るコミットメントライン契約は、顧客からの融資実行の申し出を受けた場合に、契約上規定された条件について違反がない限り、一定の限度額まで資金を貸付けることを約する契約であります。これらの契約に係る融資未実行残高は、12,842百万円であります。このうち契約期間が1年以内のものが12,842百万円あります。

なお、これらの契約の多くには、金融情勢の変化、債権の保全及びその他相当の事由があるときは、当社が実行申し込みを受けた融資の拒絶又は契約極度額の減額をすることができる旨の条項が付けられております。また、契約後も定期的に予め定めている社内手続きに基づき顧客の業況等を把握し、必要に応じて契約の見直し、与信保全上の措置等を講じております。

5. 有形固定資産の減価償却累計額 0百万円

(中間損益計算書関係)

該当ありません。

(金融商品関係)

金融商品の時価等に関する事項

平成24年9月30日における中間貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額は、次のとおりであります。

(単位：百万円)

	中間貸借対照表 計上額	時価	差額
(1) 現金預け金	135,591	135,591	—
(2) 有価証券	2,137,790	2,137,790	—
その他有価証券	2,137,790	2,137,790	—
(3) 貸出金	53,493		
貸倒引当金(*1)	△0		
	53,493	53,515	21
資産計	2,326,875	2,326,896	21
(1) 預金	1,582,667	1,582,346	△320
(2) 譲渡性預金	290,000	290,000	—
(3) 債券貸借取引受入担保金	381,191	381,191	—
負債計	2,253,858	2,253,538	△320
デリバティブ取引(*2)			
ヘッジ会計が適用されていないもの	(624)	(624)	—
ヘッジ会計が適用されているもの(*3)	(38,077)	(38,077)	—
デリバティブ取引計	(38,701)	(38,701)	—

(*1) 貸出金に対応する一般貸倒引当金を控除しております。

(*2) その他資産・負債に計上しているデリバティブ取引を一括して表示しております。デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については、() で表示しております。

(*3) これらのデリバティブ取引についてはアップフロントフィー17,539百万円を受領しており、上記の時価に当該受領額を加味した金額(△20,537百万円)に、税効果会計を適用したうえで繰延ヘッジ損益(△13,217百万円)を中間財務諸表に計上しております。

(注1) 金融商品の時価の算定方法

資産

(1) 現金預け金

満期のない預け金については、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

(2) 有価証券

債券は、取引金融機関等から提示された価格によっております。

(3) 貸出金

貸出金のうち、変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映するため、貸出先の信用状態が実行後大きく異なっていない限り、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。固定金利によるものは、貸出金の種類及び期間等に基づき、元利金の合計額を同様の新規貸付を行った場合に想定される利率で割り引いて時価を算定しております。

負債

(1) 預金

預金のうち、要求払預金については、中間決算日に要求された場合の支払額（帳簿価額）を時価とみなしております。

また、定期預金の時価は、一定の期間ごとに区分して、将来のキャッシュ・フローを見積もり、一定の割引率で割り引いて時価を算定しております。割引率は、主に Libor ベースのイールドカーブにリスクプレミアムとして当社の格付け別累積デフォルト率を加えた利率で割り引いて時価を算定しております。

なお、当初預入期間が短期間（1年以内）のものは、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

(2) 譲渡性預金

譲渡性預金は、約定期間が短期間（1年以内）であるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

(3) 債券貸借取引受入担保金

債券貸借取引受入担保金は、約定期間が短期間（1年以内）であるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

デリバティブ取引

デリバティブ取引は、金利関連取引及び通貨関連取引であり、割引現在価値等により算出した価額によっております。

(有価証券関係)

1. 満期保有目的の債券（平成24年9月30日現在）

該当ありません。

2. 子会社・子法人等株式及び関連法人等株式（平成24年9月30日現在）

該当ありません。

3. その他有価証券（平成24年9月30日現在）

（単位：百万円）

	種 類	中間貸借対照表 計 上 額	取 得 原 価	差 額
中間貸借対照表計上 額が取得原価を超え るもの	債 券	1,648,897	1,617,051	31,845
	国 債	1,428,516	1,399,048	29,468
	社 債	220,380	218,003	2,377
	そ の 他	207,709	205,343	2,366
	小 計	1,856,606	1,822,395	34,211
中間貸借対照表計上 額が取得原価を超え ないもの	債 券	112,803	112,892	△88
	国 債	82,217	82,246	△29
	社 債	30,586	30,645	△59
	そ の 他	168,380	173,085	△4,705
	小 計	281,183	285,978	△4,794
合 計		2,137,790	2,108,373	29,417

（注）時価を把握することが極めて困難と認められるその他有価証券はありません。

4. 保有目的を変更した有価証券

満期保有目的の債券の一部について信用状態の著しい悪化により、当中間会計期間中において1,079百万円の償却を行い、償却後の価額(2,420百万円)によって「満期保有目的の債券」から「その他有価証券」に保有目的を変更しております。

また、当中間会計期間中に、運用方針の変更により満期保有目的の債券611,097百万円の保有目的を変更し、その他有価証券に区分しております。なお、これによる経常利益への影響はありません。

5. 減損処理を行った有価証券

売買目的有価証券以外の有価証券(時価を把握することが極めて困難なものを除く)のうち、当該有価証券の時価が取得原価に比べて著しく下落しており、時価が取得原価まで回復する見込みがあると認められないものについては、当該時価をもって中間貸借対照表計上額とするとともに、評価差額を当中間期の損失として処理(以下、「減損処理」という。)しております。当中間期における減損処理額は、1,079百万円(うち、その他1,079百万円)であります。

また、時価が「著しく下落した」と判断するための基準は、時価が取得原価に比べて50%以上下落した場合と30%以上50%未満下落し、かつ回復可能性が認められないと判定した場合であります。

(金銭の信託関係)

該当ありません。

(税効果会計関係)

繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳は、それぞれ次のとおりであります。

繰延税金資産	
繰越欠損金	99 百万円
控除対象外消費税	92
繰延ヘッジ損益	7,319
その他	101
繰延税金資産小計	7,613
評価性引当額	△171
繰延税金資産合計	7,441
繰延税金負債	
その他有価証券評価差額金	10,484
繰延税金負債合計	10,484
繰延税金負債の純額	3,042 百万円

(持分法損益等)

該当ありません。

(賃貸等不動産関係)

該当ありません。

(1株当たり情報)

1株当たりの純資産額	10,855,970円59銭
1株当たりの中間純利益金額	131,527円80銭

(単体自己資本比率(国内基準))

銀行法施行規則第19条の2第1項第3号ロ(10)に規定する単体自己資本比率(国内基準)は26.34%であります。